

台湾×日本

海外修学旅行を目指した取組



台湾 台北市立西松高級中学校の紹介



西松高中 - 中文網站 - 台北市立西松高中

ESD-J 代表理事より本校へ紹介いただいた学校の案内連絡

【国際交流期間】 令和5年6月～令和7年3月

【国際交流校】 台湾 台北市立西松高級中学校

持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

ESD-J

令和7年5月27日 同時双方向のオンライン国際交流の様子



海外修学旅行を目指した取組 令和8年3月 42期生30名 台湾への第1回海外研修旅行



令和7年度 42期生2学年「総合的な探究の時間」での12月「まちやまサミット」、3月「探究まとめ発表会」での発表討論会

まちやま祭での調査結果

台湾クイズ
正確な記録は取れなかったものの山崎団地の方々に難易度別台湾クイズをして正答率が高かった事から台湾に関する知識と興味・関心を持っている事が分かった。

クイズ例

- 台湾島の大きさは九州より大きいか?
- 台湾では食事で出た骨をどうするか?

学びの4本柱

ホールスクールアプローチを通して、ユネスコスクールの「学びの4本柱」である

「知ることを学ぶ」

に力を入れて学んで

探究グループ⑤『台湾交流』グループ⑤ 探究サイクル

台湾と日本が互いに発展できる取り組みとは何か

山崎地域の人がどれだけ台湾について知識があるか。

「自由な発想・自覚の深化」
「具体的な成長エピソード」
「他国との比較」

「自己と台湾の高校生に同じ疑問を送り、回答の傾向を比較する比較アンケート」

結論 (探究課題に対する答え)

台湾との交流は、国や地域を越えて人や組織が協力し合い、相互理解を深める取り組みである。この点から、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」を主軸とする活動だと言える。また教育的交流や異文化理解を通じて学びの質を高める側面があり、SDGs4「質の高い教育をみんなに」にも関係している。したがって、台湾との交流は持続可能な社会の実現に向けた重要な国際的取り組みである。

教員と生徒からの新たな気付きと得られた学び【知ることを学ぶ】

<p>(教員①) 探究グループでは、台湾の生徒との国際交流に興味がある生徒が集まりました。海外研修旅行に行く生徒と探究グループの生徒は必ずしも同じではありませんでした。探究グループでは、台湾の生徒との国際交流を目指して文化、教育、漫画などの話題を選定して、どのようにコミュニケーションを取ればいいのかを探究しました。実際の国際交流では各生徒の好きなことについて自己紹介しました。英語でのコミュニケーションを含む国際交流では、代表生徒を中心に実施されました。今後は、国際交流が同時双方向もしくは対面にてできる機会を増やしていきたい。</p>	<p>(教員②) 本校が台湾での海外修学旅行を目指しています。台湾はESDの推進が盛んではありますが、ユネスコスクールではないため学校間の交流をどのようにすればいいか悩んだ時期もありました。ユネスコスクール全国大会に参加し、若手教員とESD-J鈴木理事との交流から今回の同時双方向による国際交流が実現しました。2回目以降の交流はかきませんが、とても貴重な御機会をいただきました。今後は、令和8年3月の第1回海外研修旅行をきっかけに台湾の海外修学旅行を目指し、来年度の第2回海外研修旅行にもつなげていきたいと思ひます。また、本校の全校生徒に国際交流と国際理解ができる機会を再び与えられるように努めて生きたいと思ひます。</p>
<p>(42期生生徒①) 私たちは台湾と交流して、感じたことや知れたこと、実際に現地の方と話すことで、日本との違いを体感できました。お互いの自己紹介では緊張しましたが、普段の学校生活とは違っても良い経験だったと思ひます。私は、第1回台湾海外研修旅行へも参加するため、国際交流で得られた文化の違いを現地で体験したいと思ひます。</p>	<p>(42期生生徒②) 中国語での自己紹介に挑戦しました。しかし、自己紹介では、英語力の差を感じました。初めて会った現地の生徒との自己紹介では、リモートだったため、意思疎通が難しかったです。相手とあまり交流を行えなくてどうしたら興味を持ってくれるかがわからず難しかったです。他国について知る機会がありよかったです。</p>
<p>(42期生生徒③) 同時双方向での国際交流では、台湾の文化や習慣を実際のコミュニケーションの中で知ることができました。この交流がきっかけで日本との違いや似ているところを見つけることができました。第2回国際交流の機会がある場合には、今回は違う話題にて交流を行いたい。</p>	<p>(42期生生徒④) 今回の交流を通じて、言葉が完璧に通じなくても、伝えようとする姿勢や共有する時間がいかに大切かを知ることができました。また、現地の学生と意見を交わす中で、台湾の文化や考え方の多様性に触れ、自分の視野が大きく広がったと感じています。</p>